

新ケミカル商事は現行の中期ビジョンが3年目に入り順調に推移している。25年度に設定していた売上高1000億円の目標を前倒しして今年度の目標に掲げた。引き続き、「儲かる力、耐えうる力、アピールする力」の3つの力の強化を主眼に事業活動を推進する。

油嶋武晴社長は「昨年度は原材料価格の上昇と販管費の減少により、過去最高の増収増益を計上した」と述べる。「今年度は初めて売り上げ予算が1000億円の大台に乗った。

だが半導体不足や自動車生産の遅れ、米中の景気低迷は継続するだろう。原油や天然ガス価格の下落による化学品の値下がり、とくに肥料は影響が出そうだと気を引き締めてかかる。

セグメント別にみると、今年1月に昭光通商から昭光通商アグリ、昭和培土、昭光フームネットの肥料関連会社

売上高1000億円 前倒し達成へ

3社を譲受した。みらいアグリとのシナジーを期待し商系肥料事業拡大を目指す。

4月には建材事業と子会社のNC建材を統合して新たなNC建材としてスタートし、事業強化を進める。

樹脂事業はNCT化学が扱う再生樹脂・再生機械販売事業が時流に乗り堅調に推移している。

製鉄・機材事業は日本製鉄向けに事業を拡大。とくに中国製機材の引き合いが活発になっている。製鉄事業に用いる焼酎の供給をJA全農と推進している。

NCT化学が取り組むケニアの使用済みPETボトル再資源化プロジェクトは、近くパイロットプラントを建設する。

先端材料営業部は、軽量化に向けた異種複合フィルムを開発中。

海外では上海、香港、台湾、シンガポールの4拠点で展開しており、事業強化に注力している。香港では環境配慮型のスチレン系難燃樹脂が新規採用された。

来年4月には、新中長期計画を発表し、新たな将来像を掲げる。